

平成 24 年度第 1 回海岸工学委員会幹事会議事録

開催日時：平成 24 年 9 月 27 日（木） 14:00～16:00

開催場所：土木学会 2 階 CD 会議室（東京都新宿区四谷 1 丁目 外濠公園内）

出席者：以下の 21 名の委員長，幹事長，小委員長，副小委員長，委員兼幹事

間瀬委員長，後藤幹事長

青木，重松，森の各小委員長，川崎，小林，佐々木，渡部の各副小委員長

小笠原，柿沼，北野，木原（松山委員兼幹事の代理），栗山，佐藤，諏訪，武若，丹治，陸田，森屋，山城の各委員兼幹事

資料：

- ・平成 24 年度第 1 回海岸工学委員会幹事会の議事（資料 1）
- ・PowerPoint スライド（資料 2）

■議事前報告事項

なし

■審議・報告事項

1. 前回議事録の確認（後藤幹事長）

省略

2. 報告事項（後藤幹事長）

①出版企画の募集についての報告があった。

②「数値波動水槽（数値波動水槽研究小委員会）」が出版されたことの報告があり，会議中に回覧した。

③土木学会 100 周年記念事業について（間瀬委員長）

・海岸工学委員会から「津波・高潮の水位標識の設置および沿岸防災意識の普及促進」という事業名で申請し，2 年間 100 万円（50 万円/年）の事業費で内諾された。

・海岸工学委員会に WG を設置する。構成メンバーは以下のとおり。

主査：間瀬委員長

副査：佐藤委員兼幹事

委員：海岸工学委員会メンバーで関西から 2 名程度（後藤幹事長+1 名）

海岸工学委員会メンバーで関東から 2 名程度

対象となる現地担当(若手も可)を関西から 2 名程度

対象となる現地担当(若手も可)を関東から 2 名程度

・対象となる現地は，当初全国を考えていたが，東日本と西日本でそれぞれ 1 ヶ所程度とし，既に何らかの活動が行われている地域を選定する。

- ・選定された地域には、標識作成経費と委員旅費の一部（1ヶ所10万円程度？）を補助し、現地での啓発活動費等は別途対応する。
- ・標識には土木学会100周年記念事業によるものであることを明記する。
- ・来年度はモデル活動を行う。

3. 海岸工学論文集第59巻発刊準備状況について（青木小委員長）

①最終審査報告（青木小委員長）

- ・第1段階審査：登録論文数407編，審査通過論文数302編。
- ・第2段階審査：通過論文数300編（不採択0編，辞退2編）。
- ・第2段階審査以降：1編辞退があり，計299編が採択された。

②JSTAGE作業について（北野委員兼幹事）

- ・土木学会論文集通常号のBIB作成，アップロード作業を行う業者と特別号の業者が異なる。
- ・本年度は，特別号のみ例年と同一業者で行う（作業料が安い）。

③国際セッションProc.について（青木小委員長）

- ・掲載編数は17編
- ・例年通り，和文論文集と同封して送付

④論文査読の諸課題（青木小委員長）

(1) アブストラクト査読

- ・2点の評価についてはコメント（2点の評価の理由）を入力することになり，査読者には依頼時に通知する。なお，コメントの内容は投稿者には知らせない。

(2) 第2段階査読

- ・「査読期間が短く，負担が大きい」，「第1段階査読から第2段階査読で査読論文数が減らない場合は主査の負担が大きい」，「主査が査読意見を総括し，最終判定することの認識が徹底されていない」などの意見があった。
- ・現状の査読体制でスケジュールに余裕を持たせるためには，幹事会・委員会の時期を早める必要があるという意見があった。

(3) 査読システム

- ・執筆要項の見直し（図の配置，謝辞等）や，査読システムのわかりやすさの改善（登録，確定ボタン，海洋開発との区別），報告内容の明示（ひな形），主査・副査の明示など改善すべき点が挙げられた。
- ・A判定とB判定を一つにまとめる案が出された。これにより主査の再査読の負担軽減が期待される。
- ・副査による体裁等の確認について，業者で対応できる部分は任せて，副査が確認すべき項目を定めて査読の負担を軽減するという案が出された。

(4) 出版

組版の質について

- ・校正の段階で組版の出来にバラつきがあり，業者の作業の質が一定ではないという意見があった。
- ・組版作業を省くことが出来れば，スケジュールに余裕が出来るのではないかと意見があった。
- ・最終原稿提出時の図をプリントして提出することをやめてはどうかという意見があった。

- ・査読時の体裁確認について共通認識を持つために編集委員で会合を持つという案があり、その場に出版業者も加わってもらうという意見があった。
- ・査読システムから出版の一連の過程について、編集委員会で引き続き検討して頂くこととなり、まずは、出版業者に作業内容や体裁の統一などについて確認することとなった。

J-Stage 登録作業の発注業者について

- ・J-Stage で取り扱われるファイル形式が、2014年に現在のBIBファイルから変更されることになっており、その場合、北大生協では対応できないため、2014年以降には業者の変更が必要となる（J-Stageの業者に発注した場合、コスト増となる）。
- ・当面、来年（2013年）の登録作業を依頼する業者について検討する必要がある、水工学委員会などの状況を確認することとなった。

(5) その他（青木小委員長）

- ・カラーの図等を含む原稿が白黒印刷されて査読されると、図に対して改善を求められる場合があるが、J-Stage 掲載の電子版が主であることから、元のカラーの図に問題が無ければ修正の必要は無い。このことについては、査読者への説明項目に追加する。

⑤ 著者負担金と論文集価格（後藤幹事長）

- ・著者負担金は 35,000 円（40,000 円（上限）にて告知済み）。
- ・論文集代金は 5,000 円。

⑥ 通常号掲載分の講演会での発表枠（後藤幹事長）

- ・今年度の通常号掲載分の発表件数は 3 件。
- ・通常号掲載分と特集号掲載分を併せて同一の著者の登壇は 1 回とすることとなった。特集号掲載分については、必ず登壇が必要であるので、通常号掲載分については共著者で調整を行うことを求める。

4. 海岸工学論文賞および海岸工学論文奨励賞の候補論文について（後藤幹事長）

- ・後藤幹事長より、論文賞および論文奨励賞の選考過程について説明があった。
- ・論文投稿時の生年月日の入力方法が徹底されておらず、改善が必要との説明があった。
- ・論文賞は 10 編の候補論文から全文審査により 3 編が選考された。
- ・奨励賞は 5 編が候補論文となったが、そのうち 1 編が論文賞に選考されたため、その論文を奨励賞候補から除外し、残りの 4 編から 3 編が選考された。
- ・奨励賞は第 1 著者のみが表彰される。賞状には論文名と共著者が記載される。
- ・過去の論文賞の賞状には、「海岸工学論文賞」の記載がなかった。今後は、論文賞・奨励賞の区別のため賞状の様式を一部変更する。
- ・奨励賞の表彰式について、閉会式ではなく開会式に行い、受賞者を広く紹介するなどの意見が出されたが、受賞の確定には講演会初日に行われる委員会での承認が必要であることなどの理由から、中日の懇親会で表彰することとなった。

5. 第 59 回海岸工学講演会の準備状況について（陸田委員兼幹事）

- ・日程：平成 24 年 11 月 14 日（水）～16 日（金） 講演開始 8:40 終了 17:30
- ・前日シンポジウムはなし。

- ・会場：広島国際会議場 6会場
- ・懇親会：ANA クラウンプラザ広島 18:30-20:30 会費 7000 円予定
- ・見学会：A コース 広島港・呉港視察 午前コース 20 名，午後コース 20 名
B コース 福山港・鞆の浦視察 40 名
- ・A コースについては，見学に使用する船の定員が 20 名であることから午前と午後に分けて設定しているが，講演会前日の午前の見学に参加者が見込めるかという意見があった。
- ・A コースは講演会中に実施してはどうかという案があり，午前と午後のコースで参加者がそれぞれ 20 名であることから，講演会への影響は少ないと判断され，A コースは講演会期間中の中日に行われることとなった。なお，B コースは当初の予定通り，講演会の前日に行われる。

6. 第 60 回及び第 61 回海岸工学講演会の開催（会場など）について（山城委員兼幹事，川崎副小委員長）

①第 60 回海岸工学講演会について（山城委員兼幹事）

- ・日程：2013 年 11 月 13(水)～15 日(金)
- ・会場：九州大学医学部百年講堂・小講堂・同窓会館 6会場
- ・懇親会：ホテルセントラーザ博多 18:00-20:00 会費 7000 円予定
- ・見学会：博多港見学ツアー
- ・懇親会について，会場への移動時間を考慮し開始時刻を 18:30 に変更する。

②第 61 回海岸工学講演会について（川崎副小委員長）

- ・準備状況について口頭で説明があった。
- ・会場の候補は 3 箇所。
ウインクあいち：予約は半年前から。
名古屋国際会議場：他の予約が入っている。
名古屋大学：予約済
- ・会場としてはウインクあいちが適しているため，交渉を続けるが，現状では名古屋大学になる可能性が高い。その場合，開催日程が月曜日から水曜日になるため，前日シンポジウムが日曜になる。

7. Coastal Engineering Journal について（佐々木副小委員長）

- ・出版と投稿の状況について説明があった。
Vol. 54, No. 1, March, 2012 11 編 特集号
Vol. 54, No. 2, June, 2012 4 編
Vol. 54, No. 3, Sept., 2012 4 編 オンライン出版 紙面はまだ
- ・現在のところ 12 月号は 1 編のみで出版にはあと 2 編は必要。
- ・今年度は国内からの投稿が少ないので，積極的に投稿してほしい。

8. 各小委員会等の活動について

①広報小委員会（森小委員長）

- ・今年度の講演会では，討議をオンラインでのみ受け付ける。ただし，会場ではメモ代わりに従来の用紙を配布する。

- ・土木学会国際センターについて、電中研の木原氏より説明があった。内容は
 - 海外展開において主導的な役割を将来的に担いたい。
 - 調査研究委員会の国際活動情報の提供を提供
 - 国際センターからの定期メールの周知
- ・定期メールは2か月に1回ほどの頻度で、当面は木原氏が確認し、有用と思われる情報を CECOM に配信する。

②沿岸域小委員会（重松小委員長）

- ・活動状況について口頭で報告があった。
- ・水工学委員会で12月14日13時から講演会を企画中。海岸工学関係者へ講演の要望有。

③数値波動水槽小委員会（渡部副小委員長）

- ・活動状況について口頭で報告があった。
- ・「数値波動水槽」が7月に刊行された。
- ・第2期ベンチマークテストの成果を公表予定。

④地球温暖化適応策検討小委員会（小林副小委員長）

- ・活動状況について口頭で報告があった。

⑤地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会（後藤幹事長）

- ・活動状況について報告があった。
- ・Techno Ocean（11/18～20，神戸国際会議場）において、「3.11地震・津波に学ぶ ～地震・津波被害と今後の備え～」と題したオーガナイズドセッションを実施予定。

9. 第48回(2012)及び第49回(2013)水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について（渡部副小委員長，北野委員兼幹事）

①第48回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（渡部副小委員長）

- ・8月27日～28日に北海道大学で開催された研修会の内容について報告があった。
- ・参加者の職種，参加動機，満足度，今後の要望等についてのアンケート結果をもとに，参加者が研修会の内容に満足していることが示された。
- ・パワーポイント資料の公表の要望があったが，公表すると参加費を払っていない人も入手できることや，参加者が減ることなどが懸念されるため，資料の公表は難しい。

②第49回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（北野委員兼幹事）

- ・研修会のテーマについて，今後検討を進める旨の説明があった。

10. その他

- ・森屋委員兼幹事より，8月に開催された第23回海洋工学シンポジウム「テーマ：荒ぶる海，恵の海」（主催：日本船舶海洋工学会/日本海洋工学会）について，土木学会と建築学会との共通オーガナイズドセッションが開催され盛況であったことが報告された。また，海洋開発委員会から日本船舶海洋工学会へ横国大の鈴木先生が派遣される見込みであることが報告された。
- ・後藤幹事長より，水工学委員会が主体となって水理公式集改定小委員会が組織され，海岸工学委員会に委員派遣の要請があったことが報告された。過去の例に倣って，間瀬委員長，後藤幹事長が委員と

して参加する。なお、改訂版の執筆に際しては、海岸工学関係者の執筆協力を依頼することになる旨、報告された。

- ・森小委員長と武若委員兼幹事より、土木学会論文集B通常号への投稿数が少ないことが報告された。現在、査読に要する時間は短縮されており、半年程度で出版されるため、積極的に投稿してほしいとの説明があった。
- ・後藤幹事長より、青木編集小委員長が今年度の論文集の出版（11月）をもって任期満了となり、次期小委員長には岡安委員が就任することが報告された。

次回の海岸工学委員会は、海岸工学講演会開催中の11月14日(水)18:00開始

記録(山城)